

「依佐美送信所」 IEEE マイルストーン贈呈式



2009年5月19日（火） 11:00～11:30
依佐美送信所記念館

主催：IEEE名古屋支部

共催：刈谷市 電子情報通信学会東海支部 中部産業遺産研究会

協力：依佐美送信所記念館ガイドボランティアの会

式次第 (氏名敬称略)

贈呈式 依佐美送信所記念館にて

11:00 ~ 11:30

1. 開会 IEEE名古屋支部Chair 長尾雅行
2. マイルストーン認定の経緯 IEEE Japan Council History Comm. Chair 大野栄一
3. マイルストーン銘板の贈呈 IEEE History Comm. 代表 Jonathan Coopersmith
4. 受賞の辞 刈谷市長 竹中良則
5. 子供達からのメッセージ 双葉小学校 児童代表
6. 閉会 (記念撮影)

依佐美送信所記念館見学会

11:30 ~ 12:00

祝賀会 フローラルガーデンよさみ内レストランにて (主催: 刈谷市)

12:00 ~ 13:00

記念講演会 刈谷市中央図書館にて

14:00 ~ 16:30

1. 開会の挨拶 IEEE名古屋支部Chair 長尾雅行
電子情報通信学会東海支部長 中川聖一
2. 報告 「依佐美の歴史」 田中浩太郎
3. 講演 「グリメトンからの来賓紹介とこれまでの経過」 松本栄寿
「Culture Chronology of Grimeton and Yosami (グリメトンと依佐美のあゆみ)」 Lars G Johansson
「The Grimeton Radio Station from Technical and Operative Perspectives (技術と運用面から見たグリメトン送信所)」 Kjell Markstrom

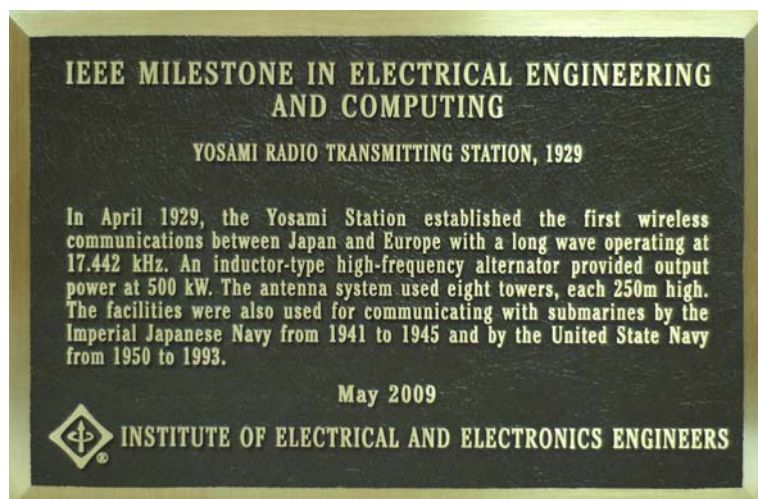
「依佐美送信所」 IEEEマイルストーン認定について

IEEE (The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)は米国に本部を置く世界最大の電気電子技術者の組織である。世界160以上の国に37万5千人の会員を擁し、コンピュータ、電子、通信、電力、自動車、バイオなどの分野で指導的な役割を担っている。IEEEマイルストーンは、関連分野で社会に大きく貢献した発明や技術開発を讃えるために1983年に制定された顕彰制度で、現在世界で80件以上が登録されている。IEEEマイルストーンは歴史的、社会的な価値に重点をおいたもので、受賞の対象は発明・開発から25年以上経過し世の中の評価に十分耐えてきたものから選ばれている。

依佐美送信所は1929年3月に、世界最大級の長波通信設備として、愛知県碧海郡依佐美村(現刈谷市高須町)に完成した。送信周波数17.442kHz、出力500kWであった。このレベルの高周波・大出力の真空管は当時まだ無く、依佐美送信所の設備は電動機と発電機の組み合わせで実現された。具体的には三相誘導電動機—直流発電機—直流電動機—誘導子型高周波発電機の4段構成が採用され、高周波発電機の周波数安定化にはワード・レオナード制御方式が採用された。高周波発電機で得られた周波数は5.814kHzであったので、出力側に3逓倍回路が接続された。当時の最高技術の結晶である。

送信所は250mの8基の無線鉄塔を有し、モールス信号によりヨーロッパに送信することができた。1929年にワルシャワを皮切りに欧州の主要都市への送信業務が開始され、当時の外交や通商を飛躍的に向上させることができた。その後、短波通信設備も強化され、長・短波ともに日本の国際通信施設としての重要な役割を果たした。

長波の性質として海面下深くまで到達できることから、送信所は太平洋戦争が始まった1941年から日本海軍により潜水艦との交信に使用された。1950年になり米海軍が対潜水艦通信用に再使用することとなり、電気興業が設備の保守をし、米海軍が運用を行うこととなった。1993年8月に業務を終えた送信所は、翌年8月に日本に返還された。依佐美のシンボルでもあった8基の鉄塔は、その一部分を残して1997年3月に解体された。社宅跡は「フローラルガーデンよさみ」として公園整備がなされている。その一角に依佐美送信所記念館が2007年4月に開館、主な送信設備と鉄塔1基が25mに短縮されて残されている。



依佐美送信所年表

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 1921年頃 | 対欧無線電信所の第一候補として依佐美村があげられる |
| 1925年 | 半官半民の国策会社「日本無線電信株式会社」設立 |
| 1929年 | 日本無線電信依佐美送信所竣工 |
| 1929年 | ワルシャワへの送信業務開始 |
| 1929-1947年 | 日本政府の政府電報，商社からの通商電報など、対欧州電信を引き受けた |
| 1947年 | GHQから無線塔の解体命令、国際電気通信会社は解散 |
| 1950年 | 占領軍から無線塔の解体中止命令、長波通信施設を米軍が接收 |
| 1950年 | 国際電気通信の第2会社として電気興業が設立され、保守運用にあたる |
| 1952年 | 在日米軍が長波通信設備を使用し始める |
| 1993年 | 依佐美送信所は送信を停止する |
| 1994年 | 依佐美送信所は日本に返還される |
| 1997年 | 鉄塔の撤去が終わる |
| 2006年 | 依佐美送信所本館・送信局舎が解体される |
| 2007年 | 依佐美送信所記念館開設 |